

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/2階ユニット)

事業所番号	2791400076		
法人名	医療法人神明会		
事業所名	グループホーム ロ・スカーロあおまだに		
所在地	大阪府箕面市粟生間谷西3-5-7		
自己評価作成日	令和4年11月22日	評価結果市町村受理日	令和5年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族的な雰囲気大切に、暖かいコミュニケーション作りに取り組んでおりゆっくりと穏やかに過ごして頂いております。医療法人ならではの医療体制を活かし日中在中の看護師が日々の健康管理を実施し、体調不良時にはすぐに対応しております。また訪問歯科では希望者にVE検査(嚥下内視鏡)にて評価して頂いております。介護、医療との連携体制は充実しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ロ・スカーロあおまだに」(事業所)は、箕面市を中心に北摂地区および大阪府下に20カ所の医療・介護・保育事業を幅広く運営する「医療法人神明会」(法人)を母体として、2009年に開設された。事業所は、緑豊かな山の手に残る田園地帯の中に住宅・マンションやスーパーなどが点在する環境にある瀟洒な建物の2・3階に2ユニットある。他に有料老人ホーム(6室)と1階にデイサービスセンター(定員35名)を併設し、合同避難訓練、共通の厨房や看護師の巡回など相互に連携している。事業所では利用者一人ひとりのペースに合わせた、毎日が楽しみのある暮らしが送れるよう、コロナ禍にあっても室内イベントの工夫や食事の充実、LINE等による家族との連絡やコロナ対応の面談室設置など、ホーム長(管理者)以下全職員が力をあわせた工夫と親身なケアが見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに掲示し、年1回は面談の機会です、事業所理念を確認しております。	法人理念「愛・奉仕・共感」に加え、開設以来の事業所独自の理念「共に寄り添いながら楽しく暮らせるよう、その人が持っている能力を活かしてもらえ支援助と、個々の思いを大切にケアを行います」を各フロアに掲げている。職員とのヒアリングにおいて、理念を日常のケアで実践していることが、職員自身の言葉の中に感じることができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為、日常的な交流はできておりません。	コロナ禍以前は、ボランティア(音楽レクリエーション、活け花等)や体験学習の受入れ、事業所文化祭には中学校のブラスバンドなど地域交流が盛んに行われていたが、ここ3年近くは中止となっている。事業所では、今後、消防署との交流(避難訓練への立会い再開)なども検討したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学対応の際に当施設のご利用がなくてもお困りごとなどをお聞きして総合的な意見をお伝えしております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍の為実施しておりません。書面での報告のみ行っております。	会議は、コロナ禍のため3年近く書面開催となっている。2ヶ月毎に事業所の報告(事故・ヒヤリハット、研修等を含む)を記載した報告書を、従来の出席者である家族等、市広域福祉課、地域包括支援センターや「びわの会」(箕面認知症家族会)に送付している。また、フロア入口に置いて利用者等に公開している。	報告書の送付先から、事業所報告に対する評価・意見、要望や情報提供などを電話・FAX・eメール等で聴き取り、「議事録」として作成のうえ関係先に配付・郵送することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	箕面市GH連絡会が3ヶ月に一回開催されており参加させていただいております。	市広域福祉課とは必要に応じ「ほうれん草」(報告・連絡・相談)を行っており、コロナ感染対策の現状把握のため市職員と市民病院看護師の来所と指導などがある。また、グループホーム連絡会(8事業所が参加)には、市職員や地域包括支援センター職員も参加し、LIFEやBPS等の研修や空室情報の交換など事業所運営の参考にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は実施しておりません。年二回の研修も実施しております。	「身体拘束適正化のための指針」を整備、3ヶ月毎の委員会開催、接遇を含む研修を年2回実施している。研修報告は、身体拘束の具体事例の記入や個々の事例が不適切ケアに当たるかなどの設問があり、理解度を評価できる工夫が見られる。身体拘束の実例はない。利用者の安全確保のため人感センサーをほぼ半数の居室に設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回の研修を実施しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し対応できるように努めている。又その内容を他職員と共有できるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず重要事項説明書にて説明を実施し、同意をいただいたうえで、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や近況のご報告をする際に家族から意見を聞き取り、管理者や職員は運営に活かすよう努めている。	利用者の意見や要望は、日常の寄り添いの中で職員が聞き取ったり仕草等で判断したりしている。家族等の意見や要望は、電話連絡時や面会時に聞いている。また、毎年、調査機関のアンケートを参考にして運営に活かしている。今回のアンケートからは事業所や職員に対する感謝の気持ちと同時に長期間自由に会えないことに対する嘆きが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍の為、会議を開催できない状況となっておりますが、日々の業務の中で聞き取りを実施し、総合的に判断し反映しております。	ホーム長(管理者)は、日常ケアに入ることが多く職員と接したり会話の機会があり、職員の意見や要望を聞き運営に活かす事も多い。また、5・11月の年2回の公式な面談があり、職員の賞与査定、目標設定や課題解決のほか職員から意見や提案があり運営に活かしたり、職員育成や悩み解決の良い機会と捉えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の面談を設け面談シートを作成し評価しております。またの半期目標を掲げ向上できるように努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加や施設内研修の実施にて職員の質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	箕面市GH連絡会が3ヶ月に一回開催されており参加させていただいております。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	ご入居決定後の面談時や入居日以降アセスメントを実施し、計画書や日々のケアに活かせるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居決定後の面談時や契約時にアセスメントを実施し、計画書や日々のケアに活かせるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お困りごと等の課題をお聞きし、当施設でご利用頂くべき内容かの検討と適切な提案を心掛けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様であり家族でもあるという考えのもと運営しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会や物のやり取りなど積極的に参加いただき、ご家族様の介護の介入を無理なく行えるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではありますが、ご家族様への声掛けを実施しています。なじみのご友人の面会なども受け付けております。	家族等との面会は、リモート(LINE)のほか、予約制で短時間ながら、相談室と玄関ホールをスライドパーティションで区切り、土・日曜日も実施し家族等の便宜に配慮している。知人・友人との面会も家族の許可があれば受け付けている。受診以外の外出等は法人のルールに従い制限しており、馴染みの場との関係は途切れたままである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席などでは、特に気を使い良好な関係が築けるようにフォローしております。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養型病院への転院がが決まったご利用者様に対しては、その後の経過など差支えの無い範囲で確認させていただいております。その際お困りごとがあれば対応しております。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のお気持ちを直接確認することが困難なケースが多いため、ご家族様とのアセスメントにて把握しております。	入居希望時にホーム長と看護師が、希望者の自宅を訪問し、本人や家族等と面談のうえ、思いや希望、生活歴を把握し、居宅マネジャー等の意見も参考にしてアセスメントシートに記入している。入居後は職員が寄り添うことや、食事の嗜好や暮らし方を観察することでより深く思いや希望を探り、記録することで職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時にご利用前に本人の生活歴、趣味など現在に至るまでの経緯などの情報を聞き取っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お身体の状態を考慮して個別に対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多職種連携にて家族、主治医、看護師、理学療法士等と課題についてやサービスに関しての意見を求めプランに反映させています。	介護計画の作成は、作成担当が中心となり家族等、医師、看護師、理学療法士、ホーム長、職員等の多職種間にて意見やアイデアを総合判断し介護計画書に反映している。モニタリングやサービス担当者会議を経て3ヶ月毎に計画の見直しを行っている。見直した計画書の内容を家族等に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の具体的に内容を記載し必要時にはアセスメントシートの運用を実施しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の面会においては流行に合わせ、居室面会を実施。遠方のご家族様においては、写真付きで近況報告や不足品の購入などにも対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域資源の活用が十分にできていないが、出来る限り安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	施設看護師を中心に往診医と本人及びご家族に対し情報共有し適宜対応しております。	全ての利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。内科は月2回、歯科は希望者が週1回の訪問診療を受けている。眼科・外科・整形外科・婦人科などの外部受診は家族が付き添う。事業所かデイサービスの看護師のどちらかが必ず勤務しており医療面で心強い。夜間はホーム長か施設長に電話連絡があり必要な対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から適宜必要な情報を共有し日々の健康管理をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い家族との懸け橋を行っております。退院時にはカンファレンスを依頼し、関係づくりに努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状況を往診医と相談し、早い段階からお話の場を設けております。今後起こりうる状況などを織り交ぜ、支援の方向性を家族、医師、看護師、介護、計画作成担当者で話し合いチームとしてケアに取り組んでおります。	入居時に「重度化した場合の指針」に基づき同意書をもっている。実際に重度化した場合は、医師・看護師・介護職と家族間で説明と話し合いを十分に行い、その後の対応を決定する。昨年の看取りを経験した職員はお葬式にも参列し、家族とともに悲しみを分かち合い、家族から謝辞をもらった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は心肺蘇生などの救急対応の研修を実地しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の同法人との連携、仕組みの構築をしております。また災害マニュアルの周知をしております。	コロナで延期になっていた避難訓練は12月中に1回実施予定である。居間の扉からベランダへ一時避難をする計画である。法人内の他事業所と情報共有し、備蓄品の融通は可能である。また、災害時のBCPIに関しては、箕面市グループホーム連絡会で得た情報を活用して作成予定である。非常災害用備蓄品の収納場所は確保できた。	法令に基づき、年度内に避難訓練(夜間想定)をもう一回実施することを期待する。また、収納予定場所に収納庫を早急に設置して、非常災害用備蓄品を収納することも望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を確保するために、研修を実施。又接遇の研修も実施している。	接遇や個人情報保護法などについて学ぶ研修を実施済みである。職員が提出する研修後の報告書は、研修内容の自己点検ができるクイズ形式になっていて、研修内容の定着効果を上げる工夫がされている。利用者をお客様として応対する言葉使いを心がけ、呼称は利用者も職員同士も「〇〇さん」を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護側の都合とならないように、利用者の思いを聞き取る、くみ取れるよう意識付けしております。お洋服を選んだり、レクレーションにおいて自己決定できるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の習慣をくみ取りながら、その人らしい生活が出来るように、個別ケアに取り組んでおります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みものを選んで頂けるよう心がけたり、日々の中で好みの服を着ていただけるように努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あと片付けを一緒に頂いたり、食事レクレーションにてケーキを作って頂いたり食事を楽しんでいただけるよう支援している。	法人直営の給食が施設内の厨房から届く。朝は調理済みの冷凍物を温めて供し、米飯(三食共)と汁物(朝と昼)は事業所で作る。刻み食・ソフト食など、個々に応じたひと手間を事業所内で加えている。月2回は食事レクレーションを実施し、プリン作り・納涼喫茶・餃子パーティーなどを楽しんでいる。下膳・片付けなどは利用者も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ、多職種連携を図り実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者に合わせたケアを行い週一回訪問歯科からのアドバイスや利用者のケアを実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要時には排泄パターンのアセスメントをしたり、個々の状態に合わせながら、出来るだけトイレに行ける環境、体制を構築しております。	介護記録には排泄・摂取水分量など詳細に記録し、使用済みパッドへの排泄量も段階別の数字で記録している。トイレ誘導時の声かけはなるべく小さな声で行っている。転倒リスクの高い利用者が多いので、用便時ドア内側のカーテンを閉め、転倒防止の見守りも効率よくできるよう付き添う。夜間は睡眠を優先しながら、オムツ交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせながら、出来るだけトイレに行ける環境、体制を構築しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人ご希望に合わせてながら支援を実施しております。	入浴は週1-2回でお湯は毎回入れ替える。転倒リスクが高く浴槽をまたぐのが難しい利用者が多いため、入浴介助2人は必須である。好評だった週2回の昼食作りをやむなく中止し、優先的に入浴介助に振り向けている。入居当初、入浴拒否が強かった利用者が、丁寧に寄り添う介護が功を奏し和やかになり、拒否も穏やかになった事例は職員の喜びと励みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるように体調や習慣に合わせて支援させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医、家族様との連携を図り看護師のアドバイスを受けながら実施しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として水やり洗濯物のたたみなど生活の中に活躍の場を提供し支援しています。また好みの飲み物を用意したり、散歩に出かけたりしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍である為敷地外への外出は基本禁止させて頂いております。 ターミナルの方で強いご希望があった方には、ご希望をかなえさせて頂きました。	コロナ禍で外出は不可能となった。今秋まで施設の駐車場でプランターの花を眺める程度の外気浴は実施していたが、寒さのためそれも中止している。毎日室内レクリエーション(漢字あそび・頭の体操・しりとりゲームなど)を実施し、日曜日にはDVDで「名犬ラッシー」などを楽しみ閉塞感を緩和している。ベランダの植物の水やりをする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては基本キーパーソン管理としており、不安に思われる方のみ、少額の未持参いただくことが有ります。必要時は事業所で立替金としてとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、携帯電話の使用のお手伝いをしたり、時には取次を実施しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔かつ、光、音、温度、湿度で適切となるよう安心して生活できるように努めております。	居間は広く明るい。室の対角線上の窓とドアを開けて、換気に努めている。利用者が糊で貼ったり色塗りの季節の飾りが壁を飾る。ホワイトボードに個々人の生活機能向上訓練項目が書かれており、訓練が一目瞭然である。手順に従った消毒を毎日実施している。ケアアシスタントと呼ばれる職員が清掃全般を受け持っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に居場所が確保できるように配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたもの、なじみの物をご用意して頂き安心して心地よく過ごせるように配慮しております。	居室にはベッド・クローゼット・洗面所・カーテン・照明器具が備わっている。馴染みのものを持ち込むよう入居時に要請しており、筆筒や家族の写真・位牌・遺影などを各々が持ち込んでその人らしく暮らしている。月1回のレクリエーションで「生け花」(希望者のみ)があり、利用者は花を鉢で切ったりして剣山を使った生け花をして居室に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力に合わせてできる限り残存機能を活かしながら必要な支援を提供している。		